

# 日本大学歯学部図書館 貴重書展示 2016 Andreas Vesalius アンドレアス・ヴェサリウス

## 展示目録

展示期間：2016年 10月7日～21日  
場 所：図書館1階閲覧室入口

はじめに

ヴェサリウスと「ファブリカ」
<p>アンドレアス・ヴェサリウスは、「De humani corporis fabrica」(通称、「ファブリカ」という解剖学書を1543年に出版した。この書物は、近代解剖学の基礎を築くものとして、その後の医学の発展にはかりしれない貢献をした。同年にはニコラウス・コペルニクス「天体の回転について」が発行され「地動説」が公にされた年でもあり、この1543年を以て近代科学史の起源ともいわれている。</p> <p>この書物をもたらした革命は2点あるといわれている。ひとつは、当時の解剖学に「自分の目で見たものを忠実に描く」態度をもたらしたことである。ヴェサリウスは、自らの手で解剖し、自らの目で観察したことをこの書物に書き記した。文献に書かれたことをそのまま信用することを止めて、事実に基づいて考える。ヴェサリウスがもたらしたのは、物事への取り組み方の変革、意識の革命であった。もうひとつは、人体の構造すべてを系統的に著したことである。人体の構造のうち適当なものだけを取り上げて扱うのではなく、人体の構造すべてを解剖、観察し、記載、図解して、系統的な枠組みを持った解剖書を初めて現出させた。科学的観察と系統的網羅という要素を解剖学の世界に加えたことで、ヴェサリウスとこの書物の名は後世に名を残すこととなった。</p> <p>「ファブリカ」が書物として果たした別の革命として、本文と図譜の有機的な結合がある。美しく精緻な解剖図が数多く収録されており、それらが書物の内容を的確に伝えている。「ファブリカ」は科学的な解剖学書というよりも、美術書という趣すら感じられる。ラテン語で書かれた専門的な書物であるにも関わらず、同書が時代と国を越えて伝えられるのは、その美しく精緻な解剖図によるものが大きい。</p> <p>ヴェサリウスの図譜の出現は、医学解剖史における画期的な出来事であるとともに、美術に対しても多大なる影響を与えた。皮を剥がされた筋肉人、肉を剥がされた骨格人が、まるで生きているかのようなポーズをとりながら牧歌的な風景の中にたたずんでいる。この図譜は、医学生のみならず人体の表現に取り組む芸術家にとっても格好の靈感源となった。</p>

## 展示資料①

<p>『De humani corporis fabrica libri septem / Andreas Vesalius』 Kodansha, Tokyo, 1976 Reprint. Originally published: Basileae : Ex Officina I. Oporini, 1543 英語題「On the Fabric of the Human Body」 邦題：「人体構造論」「ファブリカ」など 講談社より1976年に出版された「ファブリカ」複製本</p>
<p>ヴェサリウスは、いくつかの著作を残しているが、その中で重要なものと言えば、ほとんどこの「ファブリカ」一冊につきる。初版は1543年に出版された。1984年の調査によると全世界で154冊残っており、1995年の調査によると日本には7冊が存在するということである*。 オリジナルタイトルを直訳すると「人体の構造についての7つの書」となる。 本文663ページで、300以上の正確な、美しい木版の図がある。内容は、第1巻「骨と軟骨」、第2巻「筋肉と靭帯」、第3巻「静脈と動脈」、第4巻「神経」、第5巻「消化器官、泌尿器科、生殖器官」、第6巻「心臓と呼吸器官」、第7巻「脳と感覚器官」となっている。第1巻と2巻のみで本文全体の半分以上を占める。1～4巻が機能ないし所在によって分けられており系統解剖学的になっている一方で、5～7巻が部位によって分けられており局所解剖学的になっている。 今日、系統解剖学とよばれる分野の全般にわたって、1人の手でこのような業績をあげたことは、ほとんど例をみない。このときヴェサリウスは28歳で、パドヴァ大学の教授であった。自らの手で行った多数の人体解剖に基づいて書かれた本書には多くの新しい事実が盛り込まれていて、それまで最高の権威とされていたガレノスの解剖学は崩れさり、新事実は200項目を超えるといわれる。日本へは1656年(明暦2)ごろ渡来したものとされるが、これを受容するだけの言語学的、医学的素地はなく、日本の医学に直接的な影響を与えることはなかった。</p> <p>(* 坂井建雄.謎の解剖学者ヴェサリウス.1999:23p)</p>

## 展示資料②

<p>『Viscerum, hoc est interiorum corporis humani partium, viva delineatio / Andreas Vesalius』 Venice, 1539 別名：「Tabulae anatomicae sex」 邦題：「解剖学図譜」「解剖学六図」など</p>
<p>ヴェサリウスがパドヴァ大学の教授になった翌年に初めて出版された。「Tabulae anatomicae sex」という名でも知られている。6枚の解剖図からなる。門脈、全身の静脈、全身の動脈という3枚の図に、骨格人の図を3枚添えたものである。図はめくることができ、内臓の位置などを見ることができる。本学部が所蔵するのは、6枚の解剖図のうちの2枚である。この時代まで、医学のテキストに詳細な図が付くことはまれであったが、学生に対する講義における実際の必要性から生まれたようである。 この図譜は、各地で海賊版が出されたことが物語っているように、出版後非常によく利用された。その証拠として、完全な形で今日まで残っているのが2部しかないことである。読者に好まれて、バラバラになるまで読破されたことを示している。</p>

### 展示資料③

<p>『De Humani Corporis Fabrica Libri Septem 2nd ed. / Andreas Vesalius』 Basel, 1555 英語題「On the Fabric of the Human Body」 邦題「ファブリカ」:「人体構造論」など 著者自身による「ファブリカ」の改訂版</p>
<p>ファブリカ第2版は、1555年に増補改訂版として刊行された。本文は824ページで、初版より160ページ以上も増えている。図版の数も増え、初版より紙の質なども立派になっている。内容的には、ヴェサリウスが外科医として研鑽を積んだ成果をいかし、初版の訂正や内容の組替えなどを行っている。ファブリカの”完全版”ともいわれている。 2013年3月のトロント大学のウェブサイトニュース*で、「ファブリカ 第2版」のヴェサリウス自身による注釈が付いた草稿が発見されたことが報じられた。このことによりヴェサリウスは第3版の出版を意図しており、科学的側面と図版デザインの両面において改稿検討をしていたことが明らかになった。 (* University of Toronto. U of T acquires annotated copy of Vesalius's great anatomical book[internet]. <a href="https://www.utoronto.ca/news/u-t-acquires-annotated-copy-vesaliuss-great-anatomical-book">https://www.utoronto.ca/news/u-t-acquires-annotated-copy-vesaliuss-great-anatomical-book</a> [accessed 2016-10-03])</p>

### 展示資料④～⑧

<p>④ 『De humani corporis fabrica. 1 / Andreas Vesalius』 Lyon, 1552</p> <p>⑤ 『De humani corporis fabrica. 2 / Andreas Vesalius』 Lyon, 1552</p> <p>⑥ 『Compendiosa totius Anatomie deliniatio aere exarata / Thomas Geminus』 London, 1545</p> <p>⑦ 『De Humani Corporis Fabrica Libri Septem / Andreas Vesalius』 Venice, 1568</p> <p>⑧ 『De humani corporis fabrica epitomes pars prima... / Leonharti Fuchsii』 Lyon, 1551</p>
<p>④～⑧ 海賊版について</p> <p>1539年出版の「解剖学図譜」にはいくつもの海賊版が出回った。それを嫌ったヴェサリウスは「ファブリカ」出版の際には皇帝と政庁からの特許状を得て、無許可の複製を禁止するための予防線を張っていたが、実際に海賊版の出現を防ぐことはできなかった。 ⑥はイギリスのトマス・ゲミヌスが1545年にロンドンで出版した「解剖学要略」である。内容は、ヴェサリウス著の「エピトメー」*の構成を踏襲しており、中身はほぼ「ファブリカ」の剽窃である。よく売れたらしく、16世紀イギリスの医学史上に多大な影響を及ぼした医学解剖書として、確固たる地位を確立している。イギリスで製作された初期の銅図版のひとつとされ、そのため印刷史上でも特筆すべき著作となっている。 ⑦は「ファブリカ」第2版を元とした海賊版である。ウェブサイトで調査をしたところ現在でも約2万6千ドルで販売されているのが確認できた。 ⑧はヴェサリウス著「エピトメー」*の海賊版である。 これらの書物は、無許可の複製本とはいえ、歴史に貴重な役割を果たしたRare Books(稀観本)として、今なお価値あるものとして存在している。</p> <p>(*「エピトメー」 「ファブリカ」と同時期に出版された同書の要約版。学習者の便宜のために作られた本である。図版のいくつかが「ファブリカ」と共通である。)</p>

<p>その他ヴェサリウス関連稀観本について 今回の展示に出典している資料のほか以下を保有している。</p>
<p>『Opera omnia anatomica &amp; chirurgica, cura Hermanni Boerhaave &amp; Bernhardi Siegfried Albini / Andreas Vesalius』 Lyon, 1725</p> <p>『Radicis chynae usus / Andreas Vesalius』 Lyon, 1547 邦題:「シナ根の用法」</p>

### 展示資料⑨

<p>解剖手稿 第1-3巻 / レオナルド・ダ・ヴィンチ [著]; ケネス・D.キール、カルロ・ペドレッティ原典翻刻・注解; 裾分一弘 [ほか] 翻訳 東京: 岩波書店, 1982</p>
<p>レオナルド・ダ・ヴィンチ [1452-1519] はイタリア・ルネサンス期の画家、彫刻家、また科学者、技術者、哲学者。 解剖学に初めて関心を抱いて研究し始めたのは1489年のことである。以来彼は30体以上の死体を解剖し、1000枚に及ぶデッサンを描き、実現には至らなかったが120冊の大著作を計画していた。 解剖手稿は、30年ほどの歳月をかけて、事実上独力で人体の構造を探究した記録である。作業を完了した段階で、彼は次のようなノートを記した。「いかなる文字を用いれば君は、この図が示すのと同じくらい完璧に、全体の形状を記述できるのか。……人々の眼にでなく、耳に向かって言葉で示したいと望むなら、実体とか本性についての事柄を話せばいいので、眼にかかわる事柄を耳から入れようなどと思わずらってはならない」 レオナルドのこの結論は、解剖学の記載には優れた図解が不可欠であるということであり、優れた図解とは単に正確だけでなく、目的と思想を持たなければならないことを、数々の創意あふれる独自の画法で例示した。</p>

## 画像・写真等の展示

「展示資料① ファブリカ」 PCによる画像表示

出典: e-rara.ch, the platform for digitized rare books from Swiss libraries[internet].

[http://www.e-rara.ch/bau\\_1/content/titleinfo/6299027](http://www.e-rara.ch/bau_1/content/titleinfo/6299027) [accessed 2016-10-03]

スイスの図書館所蔵資料(15-19世紀)をデジタル化したフリーの画像集サイト。

状態の良い「ファブリカ」の写真をページごとに見ることができる。

扉絵や文中の挿入絵がカラーで処理されている。

「展示資料② ファブリカ 第2版」 PCによる画像展示

写真提供: 日本大学歯学部生物学教室

抜粋した写真をページごとに見ることができる。

ヴェサリウス生誕の地ブリュッセルの写真

写真提供: 山崎洋介先生(解剖Ⅱ)

図書館所蔵の複製画

「テュルプ博士の解剖学講義」

画面の右下前景に斜めに立て掛けられている分厚い大型の本は「ファブリカ」だとされている。

## ヴェサリウスについて

ベサリウス Andreas Vesalius [1514—1564]
<p>ベルギーの解剖学者、外科医。ブリュッセルに医師の子として生まれ、近郊のルーバンでラテン語とギリシア語の教育を受けた。1533年パリ大学に行ってシルビウスJacobus Sylvius(1478—1555)に、またアンデルナハのギュンテルJohannes Günther(1505—1574)らに医学を学んで、とくにギュンテルには深く傾倒して、終生変わらない師弟愛で結ばれた。当時のパリ大学は、人体解剖が許可されている数少ない大学の一つではあったが、実際の解剖は身分の低い理髪医師任せで、教授は自らは執刀せずに傍らでガレノスらの古典の講釈に終始するという実態であった。子供のころから自ら動物を解剖して内部構造を探求することに熱心だったベサリウスは、1536年郷里に帰り、貴重な人体解剖の機会を得、また非合法に入手した遺骨を研究するなどしてしだいに解剖学に熟達した。1537年、当時の医学の最高学府イタリアのパドバ大学に留学したが、その年の12月には早くも医学の学位を得た。そして23歳の若さで、解剖学と外科の教授に任用された。彼はただちに伝統的な理髪医師任せの解剖を改め、教授自らが執刀する画期的な解剖示説を開始した。1538年には早くも『解剖学六図』を出版している。パドバでは精力的に人体と動物の解剖学的研究を行い、1543年『人体の構造に関する七つの本』(『ファブリカ』)とその要約本である『梗概(こうがい)』(『エピトメ』)を出版した。『ファブリカ』は画期的な解剖学書として医学界に衝撃を与えたが、それにとどまらず、くしくも同年に刊行されたコペルニクスの著作『天球の回転について』と並んで、科学革命ののろしとしての役割も果たすことになる。『ファブリカ』刊行後、ポローニヤ、ピサなどで公開解剖を行って絶賛を博し、1544年からは神聖ローマ皇帝カール5世の侍医、ついでその子のスペイン王フェリペ2世の官医となって解剖学の研究から離れた。1564年、聖地エルサレムへの旅の途上で不慮の死を遂げた。</p>
『日本大百科全書(小学館)』より

## ヴェサリウス年表

アンドレアス・ヴェサリウス略年表	
1514	ブリュッセルに生まれる
1530	ルーヴァン大学入学
1533	パリ大学入学
1536	ルーヴァン大学へ復学
1537	『アルマンソル第九書の注釈』をルーヴァンから出版 パドヴァ大学で学位試験を受け、ただちに外科学と解剖学の教授となる
1538	『解剖学図譜』をヴェニスから出版 ギュンター著『解剖学原理』の改訂版をヴェニスから出版
1539	『瀉血書状』をバーゼルから出版
1542	『ファブリカ』の献辞を執筆 『ファブリカ』の木版をヴェニスからバーゼルに発送
1543	『ファブリカ』と『エピトメ』をバーゼルから出版 皇帝カール5世に拝謁し、帝国宮廷侍医となる
1544	ファン・ハンメの娘アンネと結婚
1545	娘のアンネが生まれる
1546	シナ根の書状』をレーゲンスブルクで執筆、バーゼルから出版
1550~	アウグスブルク滞在中に『ファブリカ』改訂版を執筆 シルヴィウスが『ヴェサヌス』を出版しヴェサリウスを攻撃する
1555	『ファブリカ』改訂版をバーゼルから出版
1556	皇帝カール5世が退位

1559	フランス王アンリ二世が馬上槍試合での負傷により死去、ヴェサリウスとパレが診察する スペイン王フェリペ二世に従って家族とともにスペインに移る
1561	ファロピウスの『解剖学的観察』がヴェサリウスの手元に届く 『ファロピウスに対する試論』を脱稿
1562	フェリペ二世の長男ドン・カルロスの頭部外傷を治療
1564	家族とともにスペインを去り、家族と別れてヴェニス着、そこからエルサレムに向け旅立つ ファロピウスに対する試論』をヴェニスから出版 ザンテ島にて49歳で死去

(「坂井建雄著/謎の解剖学者ヴェサリウス」より抜粋)

## 貴重書に関する図書の展示

解剖学を中心とした医学史、解剖美術学等の図書をセレクトしました。

当館所蔵資料(請求記号の記載があるもの)は、展示終了後に貸し出しができます。

タイトル / 著者	請求記号	出版年
謎の解剖学者ヴェサリウス / 坂井建雄著	490.2  V64	1999
人体構造論抄：ヴェサリウスのthe Epitome / ヴェサリウス [著]；中原泉訳	491.1  V64a	1994
ブリュッセルのアンドレアス・ヴェサリウス1514-1564 / チャールズ・D・オマリー 著 坂井 建雄 訳	借用資料	2001
人体観の歴史 / 坂井建雄著	491.1  Sa29	2008
解剖の時間：瞬間と永遠の描画史 / 養老孟司, 布施英利 [著]	491.114  Y84	1987
まんが医学の歴史 = A Manga history of medicine / 茨木保著	490.2  I11	2008
図説歯科医学の歴史 / Malvin E. Ring著；谷津三雄[ほか]訳	D02  R45a(大型本コーナー)	1991
人体解剖図：人体の謎を探る500年史 / ベンジャミン・A・リフキン, マイケル・J・アッカーマン, ジュディス・フォルケンバーグ著；松井貴子訳	491.1	2007
世界で一番美しい人体図鑑 / 三村明子訳	491.1  Se22	2011
An atlas of anatomy for artists / Frits Schider ; revised by M. Auerbach ; and translated by Bernard Wolf ; new bibliography by Adolf K. Placzek ; additional illustrations from the old masters and historical sources with a new section on hands selected by Heidi Lenssen	491.1  Sc3	1957
アーティストのための美術解剖学：デッサン・漫画・アニメーション・彫刻など、人体表現、生体観察をするすべての人に / ヴァレリー・L・ウインスロウ著；宮永美知代訳・監修	701.5	2013
入門美術解剖学 / 高橋彬著	701.5  Ta33	1997
「進撃の巨人」と解剖学：その筋肉はいかに描かれたか / 布施英利著	借用資料	2014
子どもに伝える美術解剖学：目と脳をみがく絵画教室 / 布施英利著	借用資料	2014
レオナルド・ダ・ヴィンチ人体解剖図：女王陛下のコレクションから / レオナルド・ダ・ヴィンチ[画]；マーティン・クレイトン, ロン・フィロ共著；東京芸術大学美術解剖学講座訳	491.1  C76	1995

## 参考資料

上記リストの図書のほかに下記の資料を参考にしました

西野嘉章. 医学解剖と美術教育. 「脇分」から「藝用解剖学」へ[internet]. <a href="http://www.um-tokyo.ac.jp/publish_db/1997Archaeology/02/20400.html">http://www.um-tokyo.ac.jp/publish_db/1997Archaeology/02/20400.html</a> [accessed 2016-10-03]
阿久津裕彦. 解剖学と芸術. 『ファブリカ』の解剖図の芸術性[internet]. <a href="http://hiblog2009.blogspot.jp/2013/10/blog-post_16.html">http://hiblog2009.blogspot.jp/2013/10/blog-post_16.html</a> [accessed 2016-10-03]
鈴木秀子. 貴重書紹介. アンドレアス・ヴェサリウス『人体の構造についての七つの書』[internet]. <a href="http://www.lib.meiji.ac.jp/about/publication/toshonofu/suzukiA01.pdf">http://www.lib.meiji.ac.jp/about/publication/toshonofu/suzukiA01.pdf</a> [accessed 2016-10-03]
Karger. 500Years Vesalius[internet]. <a href="http://www.vesaliusfabrica.com/">http://www.vesaliusfabrica.com/</a> [accessed 2016-10-03]